

安否確認訓練

人数	時間	場所	用意するもの
10人～	60分～	実際に住んでいる地域	安否確認札、集計表など

○災害初期における隣近所の声のかけ合いや、地域で決めた方法による地域全体での安否確認を行きましょう。

○安否札やタオルを用いるなど、地域でルールを定めて定期的に安否確認訓練を実施しましょう。

○高齢者や体が不自由な方だけでなく、乳幼児、妊婦さんにも配慮が必要です。また、健常者でも負傷すれば近隣の方々の助けが必要になります。このような認識を自主防災組織内で共有しましょう。

○要配慮者の情報は平常時から把握し、必要に応じて優先的に安否確認を行うなど、自主防災組織の皆様で連携した支援を検討しましょう。

※初めて訓練を実施する場合はフェーズごと地域で確認しながら行うのも良いです。

【訓練スケジュール（例）】



安否確認札（例）

ステップ1 まずは、 地域のルール決め	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の実情に即した安否確認の方法（ルール）を地域で決める。 ① ツール：安否確認札、黄色いタオル等 ② 実施範囲：組単位やブロック単位等 ③ 一時集合場所：組等の単位で災害種別ごとに選択 ④ 自主防災組織現地本部の設置場所：公園や広場、地域防災協力事業所の駐車場等から複数選択 ⑤ 報告の流れ：自主防災組織現地本部へ報告するまでの流れ
地域住民に広報	<ul style="list-style-type: none"> ● 啓発：発災時における安否確認の重要性 ● 決め事：「安否確認の方法」や集合場所等を周知 ● 訓練内容：訓練実施日時、訓練内容の広報（例：一斉清掃等に併せて実施している地域もある。） ● 広報方法：組回覧や、掲示板
訓練をやってみる	<ul style="list-style-type: none"> ● 訓練目的を決める（代表者の動き、地域へのルールの周知、実施率の向上、集合場所等への避難率等） ● 地域で決めたルールで、実際に安否確認を実施する。 ● 初めての訓練では、どれだけ地域に浸透したか参加率等を集計し、課題を整理する。 ● 未参加世帯への説示（安否札を掲示していない世帯を訪問し説示する。）
結果を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> ● 自主防災会長等が集まり訓練結果を振り返る。
ステップ2 要配慮者を考慮した訓練を進めよう	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難に支援が必要な方（高齢者や障害者、乳幼児など）もみえるため、地域の安否確認訓練に慣れてきたら、区役所や消防署の協力を得て「助け合いの仕組みづくり」による、要配慮者に特化した訓練も進めてみる。 ● まずは、地域での支援の進め方を話し合うことからスタートさせます。その後、把握のための名簿の作成、個別支援計画の作成、訓練の実施に繋げる。 ● 平時から、地域で要配慮者を把握しておくことで、効率的な安否確認等に繋がる。